

名家連ニュース

令和6年12月26日(木)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 池山 豊子
TEL/FAX (052) 846-5576 NO. 1020号

◆◇ 令和6年12月家族 SST 講座 報告 ◇◇

今年度第7回 SST 講座が令和6年12月21日(土)同朋大学博覧館にて開催されました。今回は初めて参加された方が3組、吉田先生と津端臨床心理士を含め16名の参加がありました。

先生より、「この講座は当事者の SST ではないので家族が体験した話を聴く事が大事で当事者との関わり方を学ぶ、ここにポイントを当てる」と説明され、簡単な自己紹介から始めました。



・ホームページで知り初参加のご夫婦は、1日中家で過ごす37歳娘さん(解離性障害と自閉スペクトラム)とトラブルが絶えず関わり方に知恵を借りたい！と。食事場面でのロールプレイを見て、参加者より「我が娘も洗濯場面で同様な事がある。娘の要求に対しできる事は目を瞑るが、これ以上はできないという事は線を引くという対応をしている。結構ストレスが軽減する」「どうして？と聞かず否定しないで、言った事を繰り返すとわかってくれたと何も言わなくなる」と経験談を話されると、「やってみます」と表情が変わられました。

・この時「なるほど！」と漏らされた声がありました。当事者の息子さんが勉強したいと突然親子3人で参加したという父親は「会話すると想定外の返信がある。病気がそうさせているのか？」と障害を受けきれない様子。ヘルパーの仕事をしている母親は「傾聴と同調が大事」と学び、息子さんが気楽に生きていけるようにサポートしたいと考えてみえました。

息子さんに思いを尋ねると「10年前発症(強迫性障害とうつ)し家族に理解されず辛かった。今日は両親が参加してくれて嬉しかった」と。父親の「病気だからと言ってこのままでいいとは思わない事も…」の悩みに、息子を持つ他の父親から「父はこう思っているんだよと言いたいけど解決しないので、これが病気なんだなと思うと無理しないようになった」と経験を話されました。

息子さんに診断が降りた時の気持ちを聞くと「自分としては病と戦っているのに家族が優しくしてくれれば理解してくれたかと安心できる」と話される姿勢は常に冷静でした。

・福祉支援事業所で働き、自身も息子さんの発達障害の1年後の検査を待つ母親からのお話もありました。職場でも SST が活用できたらとの参加でした。

当事者の思い、家族の思いを聞き合う中で、互いの気持ちに気づき合える貴重な機会になりました。次回は2月22日(土)13時半～同朋大です。(担当 熊谷)